

球根アイリス若紫の早期促成栽培に関する研究

永田秀夫・蟹江 定・掘田武撥

(熊本県農業試験場)

アイリスの早期促成栽培は、主としてブルーオーション、アイデアル等が利用されているが、最近では切花として価値の高いブルーリボン、ブルーマジック、若紫等の濃色系品種が有望視され、栽培も増加しつつある。そこで、本県で球根生産が実施されている濃紫色系の若紫について、早期促成の可能性を検討したのでその概要を報告する。

試験方法

供試品種は熊本県芦北産若紫を用い、試験区は球根のサイズ(10cm球、8cm球)、冷蔵前処理(石灰窒素処理、くんえん処理)、植付け時期(9月1日、9月11日、9月21日)、試験ほ場(平地地：園芸支場、高冷地：阿蘇

分場標高543m)を組合せて合計24区を設定した。冷蔵は予冷14℃7日+本冷8℃63日の合計70日間実施した。

結果および考察

出陣時の球根の状況：大球ほど、また冷蔵処理の時期が遅くなるほど冷蔵効果が高く、発根、発芽が優れた。

採花調査：冷蔵前処理の違いによる差は認められなかった。平地地において、10cm球区は9月1日の植付けで採花率60~70%とやや低かったが、9月11日以降は採花率80%以上、到花日数50~52日と十分促成効果が認められた。8cm球区は9月1日植えてはブラインドが多発して採花率20~40%と低かったが、9月11日70%、9月21日80%と植付け時期が遅くなるに従い採花率は向上し

第1表 採花調査

区	分		草丈	株高	葉数	採花始	採花終	平均到花日数	採花率	ブラインド率	腐敗率	
	植付け日	試験地										球のサイズ
9月1日	平地地	10	石灰窒素	45.0	51.0	6.1	10・13	10・26	48.3	57	40	3
			くんえん	45.9	54.5	6.2	10・15	10・24	48.6	67	33	0
	高冷地	8	石灰窒素	43.8	50.4	6.0	10・18	10・24	49.2	23	77	0
			くんえん	48.4	54.5	6.0	10・19	10・29	50.5	37	63	0
	高冷地	10	石灰窒素	44.2	58.8	5.6	10・17	10・28	50.4	82	18	0
			くんえん	46.4	63.5	6.1	10・18	10・29	50.2	83	17	0
9月11日	平地地	10	石灰窒素	53.3	60.8	6.0	10・27	11・9	51.9	87	13	0
			くんえん	50.2	49.4	6.0	10・27	11・6	49.7	80	17	3
	高冷地	8	石灰窒素	49.2	56.2	6.0	10・27	11・6	51.9	73	27	0
			くんえん	50.3	51.6	6.1	10・29	11・7	51.4	72	28	0
	高冷地	10	石灰窒素	46.1	53.8	6.1	10・27	11・11	55.2	93	7	0
			くんえん	44.5	47.7	6.1	10・28	11・11	53.1	83	17	0
9月21日	平地地	10	石灰窒素	45.2	51.3	6.1	10・29	11・9	53.4	88	12	0
			くんえん	44.8	47.6	6.1	10・29	11・8	51.4	80	20	0
	高冷地	8	石灰窒素	52.0	53.9	6.2	11・5	11・17	50.2	90	10	0
			くんえん	51.3	48.5	6.2	11・6	11・17	49.9	83	14	3
	高冷地	10	石灰窒素	52.3	54.3	6.0	11・8	11・17	52.8	83	17	0
			くんえん	48.7	48.2	6.2	11・6	11・17	51.4	78	22	0
高冷地	8	石灰窒素	44.8	45.7	6.4	11・5	11・20	51.6	83	12	5	
		くんえん	43.9	44.4	6.3	11・6	11・16	50.3	80	13	7	
高冷地	10	石灰窒素	41.7	43.9	6.1	11・7	11・20	51.4	85	13	2	
		くんえん	40.2	42.4	6.2	11・7	11・16	49.6	78	20	2	

た。高冷地において、10cm球及び8cm球区とも9月1日の早期植付けから採花率80%以上と良好な結果が得られ、球周間の差は認められなかった。

植付け初期(植付け後10日間)の平均気温：平地地の気温は、9月1日植え27.4℃、9月11日植え25.2℃、9月21日植え23.2℃であったが、高冷地では9月1日植えても25℃以下で、平地地の9月中旬~下旬に相当する気温

であった。

以上の結果から、平地地において、10cm球は9月中旬、8cm球は9月下旬が早期植付けの限界と考えられ、特に植付け時期が高温の場合、大球の使用が望ましい。また高冷地では、10cm球及び8cm球とも9月上旬植付けから、高温障害を受けずに順調な生育を示したことから、8cm球でも十分実用に供し得ると考えられる。